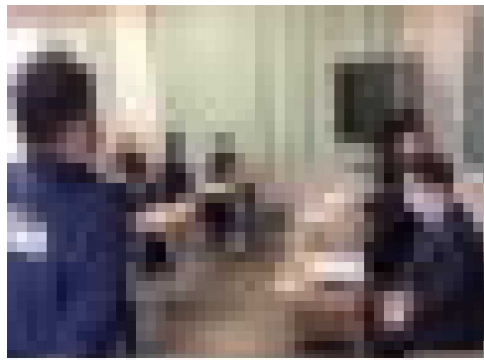


# 小合中学校だより

第405号  
教育目標  
自主  
協力  
創造



(上) 生と性の講演会(一年)  
(下) 右にいがた和牛肥育名人  
から学ば(三年)  
左 修学旅行スローガン(二年)



## 卒業を祝して

校長 太田 公仁

三月四日(月)、第77回卒業証書授与式を挙行政いたしました。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策で来賓並びに保護者の皆様のご臨席を一部制限させていただいての式典でしたが、五類への移行を受け、多くの方からのご臨席を願って式を挙行できますことをありがたく思っています。卒業式は、当校三

カ年、そして義務教育九カ年を修了することを讃える式典であり、卒業生の前途洋々たる未来にエールを送るものです。保護者の皆様には、これまでのお子様の養育に敬意を表しますとともに、大海に乗り出す若人にさらなるご支援をお願いする次第です。

卒業生は、新型コロナウイルス感染症対策の中、中学校に入学し、そして今年度はコロナ対応の緩和の流れの中で新たな学校生活の日常を過ごしてくれた生徒でした。安全・安心の確保を最優先に、そして影

響は最小限にすることを目指して学校の教育活動は見直され、時として不自由な思いもしてきました。しかし、「学びを止めない」との思いを共有し、コロナ禍にあっても学びを進めてくれたことは、生徒一人一人にとっても意義のあることでした。

先日実施した生徒会行事「生徒総会」では、今年度の生徒会活動を振り返るとともに、下級生に向けての卒業生の熱いメッセージを受け取りました。卒業生の頑張ってきたことが十分に下級生に伝わり、下級生は卒業生の思いや願いを踏まえてこれからの学校生活をよりよいものにしていくと決意を新たにしています。この営みこそ学校文化であり、小合中学校の大切にしたいポイントです。

卒業生に幸多かれ。

## 卒業に向けて

三年

三年間で一番の思い出は委員会です。理由は二年生の時に学級委員、三年生の時には保健給食委員長を務めたからです。学級委員では、学年のまとめ役としてどうしたら上手く指示が出せるかを考えました。体育祭の学年種目を考えるのは大変だったけど、楽しかったです。また、保健給食委員会では、僕の意見で今年から加湿器の扱いを変えるなど、委員長として新しい事を始めたり、委員会の仲間と一緒に企画を作ったりすることができ、充実した一年でした。

三年

この三年間で私は様々なことを学びました。一番印象に残っていることは、三年生最後の体育祭です。私は応援団長をしました。そこではみんなと協力し合い精一杯楽しむことができて、よかったです。本当にありがとうございます。

四月から新しい学校生活が始まります。これまでの中学校生活で学んだことを生かし、高校生活ではどんなことがあっても「いつだって大丈夫」になるよう励んでいきます。

## 先輩に感謝！

一年

一年間全校を引っ張ってくれてありがとうございます。先輩の手下となるように、リーダーとして全校をまとめている姿はとてまかっこよかったです。中学を卒業してもそのリーダーシップを発揮して頑張ってください。

二年

三年生のみなさん今までありがとうございました。三年生との思い出で一番印象に残っているのは、部活です。いつも笑顔で優しい三年生のおかげで楽しく部活ができました。卒業するのは寂しいけれどこれからも頑張ってください。

## 授業の様子

### ◎「生と性の講演会」

(一年生・二月二日(金))

助産師の齊藤里佳先生をお招きし、「生命誕生」をテーマに講演会を行いました。男女の身体のしくみや思春期の悩み、排卵や妊娠についても学びました。

### △生徒の感想▽

今までは、自分が生まれたことに関して何も思わなかったけど、話を聞いて自分が生まれたことが本当に少ない確率なんだなと実感しました。これからはもう少し自分のことを大切にしようと思えました。そして、改めて親に感謝しようと思いました。未来の自分が子どもを作るとしたら、しっかり女性を大切にしようと思えました。いつか子どもをもったら、しっかり愛情を込めて育てようと思えました。



### ◎「いがた和牛肥育名人から学ぶ」 (三年生・二月二十九日(月))

県内では「いがた和牛肥育名人」に十名の方が認定されています。時田卓様(合同会社アグリフロンティア・村上市)から来校いただき、お仕事の魅力ややりがいなどについて、お話を伺いました。

### △生徒の感想▽

和牛が生まれてから出荷するまでに、多くの手順と苦労があることがよくわかりました。例えば牛をいつもと違う場所にもつて来た時に、震えたりしないように栄養を与えたり、温めたり、牛が繊細な動物だからこそする対応がたくさんあって驚きました。また、時田さんが肥育名人になるまでの過程にビックリしました。時田さんは兄弟でじゃんけんをした結果、働いていた会社をやめてこの仕事に就いたそうです。将来どのような職業に就くかは、ほんの些細なことでも決まることがあるんだなと思いました。時田さんのように行動するきっかけを見つけ、努力していきたいと思えます。